

フルミスト（弱毒生ワクチン）について

費用

8000 円（税込）

接種対象者

2 歳以上 18 歳までの方 （対象年齢以外の方は接種できません）

フルミストの接種に注意が必要な人

日本小児科学会は「経鼻弱毒生インフルエンザワクチンの使用に関する考え方」の中で、以下に該当する人には、フルミストではなく、不活化インフルエンザワクチンの接種を推奨しています。

- 重篤な喘息の診断を受けている人
- ゼラチンアレルギーを持っている人
- 鶏卵、鶏肉、その他鶏由来のものに対して重篤なアレルギーを持っている人
- 周囲に免疫不全状態の人がいる人
- 免疫不全状態の人
- 妊婦や授乳婦

妊娠していることが明らかな人は接種できません。妊娠出産が可能な年齢の女性は約 1 か月間避妊した後に接種し、接種後は約 2 か月間は避妊する必要があります。授乳婦が接種した場合には、接種後 1～2 週間は子どもとできるだけ接しないように注意する必要があります。（治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続または中止を検討します）

回数

1 回で完了です

フルミストを左右両鼻腔内に、0.1mL を 1 噴霧ずつ噴霧。

（スプレー時に薬のにおいや痛みはないと言われています）

★フルミストの接種後、他の生ワクチン、不活化ワクチンを接種する場合、特に間隔の制限はありません

副反応

他のワクチンと同じような副反応（発熱、ショック、アナフィラキシーなど）のほか、鼻の中へスプレーすることで以下のような副反応があらわれる可能性があります。

- 鼻漏（びろう、鼻水がのどに落ちる）
- 鼻づまり
- 咳
- 口の中の痛み
- のどの痛み
-

<フルミストのメリットと注意点>

メリット

腕に皮下注射する不活化インフルエンザワクチンと比べ、以下のようなメリットがあります。

- 注射のワクチンと違って針を刺さないので、刺した部位の発赤・疼痛といった副反応がない
- 接種回数が1回で完了する
- 不活化インフルンザワクチンより効果が長持ちする（6ヶ月ほど）

注意点

- 接種当日は過激な運動は避けること
- フルミスト接種後1～2週間は、重度の免疫不全者と密に接することは避けること
- フルミストは弱毒生インフルエンザワクチンなので、飛沫や接触でワクチンウイルスの水平伝播（すいへいでんぱ）の可能性があります。
- フルミスト接種後一定期間はワクチンウイルスがインフルエンザの迅速検査で陽性反応を示すことがあります。接種後に受診する際に医師にフルミストを接種していることを申し出て下さい。

<フルミストに関するよくある質問>

Q1.他のワクチンと同時接種は可能ですか？

可能です。当院予約 HP の【予防接種（定期・任意）】の枠でご予約下さい。

Q2.フルミストを点鼻したあと、鼻をかんでもいいですか？

とくに制限はありません。

Q3.フルミストの後、点鼻薬を使用してよいのか？

とくに制限はありません。

Q4.ワクチンの効果はいつごろ？

接種後2週間すると効果が出てきます。

Q5.ワクチン接種直前に、インフルエンザにかかったらどうすれば良いですか？

抗インフルエンザウイルス剤（例：タミフルなど）を服用しているとワクチンウイルスの増殖が抑制され、ワクチンの効果が減弱する可能性があります。体調がよくなってから1～2週間あけて接種しましょう。

Q6.ワクチン接種後、すぐにインフルエンザにかかったらどうすれば良いですか？

フルミスト接種後2週間ほどの間に、タミフルなどの治療薬を服用すると、フルミストの効き目が低下してしまう可能性があります。インフルエンザに罹患した場合には医師にフルミストを接種していることを申し出て下さい。